

【全体概要】

- 本県では加工業務用タマネギを推進し、定植機や収穫機などをJAが整備し、産地が形成されている
- しかし近年、定植時期に豪雨や長雨などの天候不順が続き、①定植遅れや苗の老化により生育が遅れ収量が減少、②長雨により定植ができず、計画した面積が栽培できない等が課題となっており、実需者からは安定した出荷量が維持できる産地を要望されている
- そこで、安定的にタマネギを出荷するため、規模拡大に対応した新たな機械化体系の確立や安定的に出荷量を確保できる体制の検討を進める

新品種・新技術等の概要

タマネギを安定的に出荷できる技術の導入

①タマネギの大型コンテナに対応した大型拾上機

規模拡大に対応したタマネギ用大型機械



オニオンハーベスタ

②強制通風乾燥技術

大型コンテナに対応した強制的に通風し乾燥を早める技術



強制通風乾燥機

③高温期育苗技術

覆土専用培土や遮熱シートを利用した高温期に発芽を安定させる技術

④春まき夏どり作型

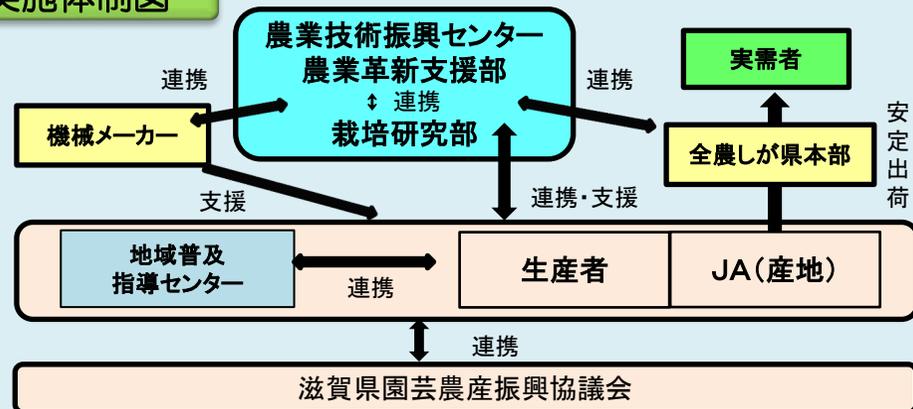
農研機構東北農業研究センターで開発された技術で春に定植し7月に収穫する作型

主な取組内容

- 大型拾上機による収穫作業など上記4技術の実証を実施
実証ほ県内3カ所に設置
- 実需者との意見交換会、関係者による現地検討会や園芸振興大会を開催
- 生産者との意見交換会や園芸振興大会で実証状況の報告を行い生産者へ周知



実施体制図



課題と今後の対応

実績

- 栽培面積 : 12.7ha(H30)→43.8ha(R3)
- 早植え(11月10日までに定植)面積 : —(H30)→9.7ha(R2)
- JA全農しがを通じた出荷量 : 259.7t(H30)→1,224t(R2)
- 大型拾上機の導入 : 0台(H30)→2台(R2)

課題

- 早植えに対する意識は向上できたが、定植直前にうね立てを行うことから降雨の影響を受け、定植が遅れることがあり、早期の圃場準備の実施が必要。
- R2年は長雨で拾い上げできず圃場廃棄が発生。早期からの拾い上げ実施に向けた作業の見直しや品種構成の検討が必要。
- 春植え作型は、現状の品種では小玉および腐敗が多い。今後、より春植え作型に合った新たな品種が育成できれば導入できる。

今後の対応

- 早期の圃場準備に向けた啓発
- 球肥大に応じた根切り作業の実施による作業分散